Akita University

秋田大学教育文化学部研究紀要　教育科学部門　69　pp. 133 ～ 143　2014

秋田明徳館高等学校におけるマネジメント機能

神居　隆・佐藤修司・菊池繁樹・星　祥子

The function of the school management in Akita-Meitokukan high school

Takashi KAMII, Shuji SATO, Shigeki KIKUCHI, Shoko HOSHI

Akita-Meitokukan high school unified part-time schooling system courses of Akita-Chuou high school and Akita-Kougyou high school and was founded on the basis of Akita-Higashi high school. Akita-Meitokukan high school has a part-time course and a correspondence course, at the same time, Space-Io is acceptable to children and students of school refusal or socially reclusive in a compulsory education stage.

There are many examples that part-time high schools turn into credit system high schools in order to correspond to the increase in high school dropouts, Space-Io where there also have a public institution like free-school are very rare.

In Akita prefecture, Akita-Meitokukan high school has played the central role till the present as a place where children and students of a compulsory education stage and high school stage, having various problems, learn.

In this paper, we will consider how the school management by the principals have been carried out from foundation stage to the present stage of Akita-Meitokukan high school and should be from now.

１．はじめに

秋田県立秋田明徳館高等学校は 2005 年に，秋田東高校を母体とし，秋田中央，秋田工業の定時制課程を統合して創設された。定時制課程と通信制課程を持つと同時に，スペース・イオを併設し，義務教育段階の不登校，引きこもりの児童・生徒を受け入れている。高校中退者の増加に対応するため，定時制高校が単位制高校となる例は，全国に多く見られるが，スペース・イオのようなフリースクール的な施設を併有するところはきわめて珍しい。秋田明徳館高校は，高校段階も義務教育段階も，様々な背景を抱えた，多様な児童･生徒が学ぶ場として，現在まで, 秋田県において中心的な役割を果たしてきた。本稿では，秋田明徳館高校の創設前後から現在にいたるまで，校長が果たしてきたマネジメントのあり方について検討を加える。

単位制高校は，臨時教育審議会の 1985 年 6 月の答申で提案された。当時，高校進学率が 95％近くに達する中で，高校への不本意入学，高校中退（留年･原級留置）が社会的に問題となっていた。その打開策として，中学校での進路指導の改善とともに，高校制度の改革が提案され，単位制高校の他に，中高一貫校や総合学科など，特色ある学校づくりが推進されていった。学歴社会の是正，生涯学習体系の構築，個性重視の原則など，臨教審が打ち出した根本的理念はあまり実現されたとは言えないが，個別の制度改編については少しずつではあるが，現在まで進行してきている。

単位制高校について言えば，学校教育法施行規則改正が行われた 1988 年時点では 4 校であったが，特に 1993 年度から全日制にも拡大され，1995 年の 88 校から急激に増え始め，2005 年に 686 校（内全日制 405 校），2010 年には全体で 928 校（内全日制 533 校）へと拡大している。

1988 年の省令改正の際の文部事務次官通知（昭和 63 年 3 月 31 日）では，

○定時制課程，通信制課程では，「学年による教育課程の区分を設けない課程」（＝「単位制による課程」）を置くことができる。

○高校の入学者選抜は調査書及び学力検査によることを原則とするが，単位制による課程では，多様な生徒を受け入れるためその方法は設置者が定める。

○入学・卒業の時期は学期の区分に従い，四月，三月以外にすることができる。

○生徒が多様な科目を選択し単位を修得することを可能とするとともに，卒業の認定について生徒が過去に在学した高等学校において修得した単位をも累積して行うことを可能にする。

といったことが述べられている。

秋田県の場合，総合学科の高校（増田高校，能代西高

Akita University

校，西目高校），中高一貫校（秋田市立御所野学院，県立大館国際情報学院，県立横手清陵学院：いずれも併設型）が整備され，単位制高校については秋田明徳館高校だけとなっている。この秋田明徳館高等学校の創設にあたっては，初代の神居校長の多大な貢献があった。今回，神居元校長（現・秋田大学教育文化学部教授）への聞き取り（2013年7月10日）を行い，さらに，現在5代目となる安藤巳智子校長にも聞き取り（8月2日，同時に施設訪問）を行った。また，安藤校長への聞き取りを踏まえながら，現時点での明徳館高校と今後のあり方について神居元校長に分析をお願いした。

2．創設期について：神居元校長からの聞き取り

秋田県立秋田明徳館高校は，2005年に定時制と通信制を備えた高校として開校された。また，同じく2005年に小学生，中学生，高校生，および中学卒業後の不登校・引きこもり傾向の子どもたちを対象とする学習支援を行うことを目的に，「スペース・イオ」も開設された。

定時制・通信制について

明徳館高校の前身は，1942年に設立された私立秋田夜間中学校である。1943年に，同校は県立に移管され，秋田県立秋田第二中学校として創立された。1948年4月1日には，学制改革によって，秋田県立秋田南高等学校夜間部となり，通信教育部が設置された。そしてその2ヶ月後の6月1日には定時制課程も設置された。

その後，1948年から1956年にかけて，秋田南高校の分校が次々と設立された。1948年には，戸米川分校，川添分校，大正寺分校ができたが，1957年に戸米川分校と大正寺分校が雄和分校として統合された。さらに1963年には川添分校が廃校になり雄和分校に統合された。この雄和分校は1978に閉校している。また，1950年に上北手分校，1956年には土崎分室が設立されたものの，1963年までに中心校である秋田南高校に統合されている。

そして1951年に夜間部と定時制課程が，定時制課程として統合され，2年後には学校名を「秋田県立秋田南高等学校」から「秋田県立秋田高等学校」に改称された。秋田明徳館高校は，秋田高校の定時制課程としてその道を歩むことになる。しかし1964年，秋田高等学校に併設していた定時制課程が独立し，「秋田県立秋田東高等学校」となった。これには1947年から1949年頃の第一次ベビーブームが関わっていると考えられる。このころに生まれた子どもが高校生の年代に成長したことから，県内の高等学校も次々と設置された。例として，1962年に大曲工業高校，大館商業高校，由利工業高校そして秋田南高校が設置された。また，1948年に設置された通信教育部が，この年に通信制課程として設置された。1968年3月31日，秋田東高校の校舎が完成したことに伴い，今まで秋田高校の校舎を利用してスクーリングを行っていた通信制課程を移設設置した。このようにして，定時制課程と通信制課程からなる秋田東高等学校となった。

秋田東高校に加え，同じく定時制であった秋田中央高校，秋田工業高校の三校を統合し，2004年5月7日，名称を「秋田県立秋田東高等学校」から「秋田県立秋田明徳館高等学校」とした。「明徳館」という名前は，1789（寛政元）年秋田の久保田藩第9代藩主，佐竹義和により創立された藩校に由来する。教育方針は「萬世師表」，つまり「永遠に人々の模範を示す教師」である。14歳以上を対象とした西学と14歳未満を対象とした東学の二編成で朱子学や医学も教えていた。授業時間は午前10時から午後10時までであった。この藩校は，武士階級だけでなく，足軽・百姓・商人・女子の誰もが通うことができ，さらに夜間にも授業を行っていた。本校は藩校所在の近くに建ち，「広い年齢層」が「昼夜を問わず学んだ」点が類似していることから「明徳館」の名前を受け継いだと説明されている（平成25年度学校要覧）。

スペース・イオについて

スペース・イオは，小中学生の不登校や引きこもりなどで，自分の所属する本籍の学校に行けない児童生徒を対象とする学習支援を目的に開設されたものである。イオとは，「In・Out」（出入り）が自由にできる空間と意味するとともに，イタリア語で「私」の意味がある。21世紀の教育課題として中高一貫校の設置や高等学校の統廃合問題などが出されている中，秋田県は，1998年2月「新しい時代に対応する高等学校の構想委員会」において，不登校・引きこもりの対策として，フリースクール的空間の設置が提言された。また，神居元校長は，1999年の「第5次秋田県高等学校総合整備計画」に関わっており，提言の実現に向けて計画を進めていた。2000年に設置計画が策定される際，秋田県教育・福祉複合施設「明徳館ビル」に設置されることになり，2004年4月，神居元校長が秋田東高等学校の校長として赴任した際に，通信制課程での試行が開始された。

文部科学省では，小・中学生の不登校児童生徒数が全国で約12万6千人（2003年度）である実態を受け，不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成する必要があると認められる場合，特定の学校において教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成することを認めたり，自宅においてIT等を活用して行った学習活動について，校長は指導要録上出席扱いとすることを認めたりするといった，不登校児童生徒の学習を支援す

Akita University

る方針を打ち出した。それに伴い，スペース・イオは文部科学省から認定を受け，事業を展開していくこととなった。現在，スペース・イオと同じように特区の認定を受けている自治体はあるものの，県として認定を受けたのは秋田県が初めてであるので，県全体で不登校児童生徒の学習機会を保障した先駆的な例と位置づけることができるだろう。

設立当初の課題

このような変遷をたどり，現在の秋田明徳館高校が完成した。しかし，設立当初に何の課題も抱えていなかったわけではなく，必要なことを取り入れながら学校の改革さらにマネジメントが行われたことが神居元校長の聞き取り調査から明らかになった。

設立当初は，まだ秋田明徳館高校としての体制は確立していなかった。それは，秋田明徳館高校の中にまるで６つの学校が入っているようなものであったことがその理由の一つと考えられる。初めは，定時制と通信制の入学式，卒業式を別々で行っており，さらに定時制の中でもⅠ部，Ⅱ部，Ⅲ部と分かれていた。それに加えてスペース・イオとNHK学園のスクーリング代行も行っていたため，それぞれの行事をそれぞれで行っていた。そこで神居元校長は，平成18年度から入学式等の学校行事を，定時制と通信制の合同で初挙行した。これは，今まで同じ高校でありながらも別々の高校のように存在していた定時制・通信制の一体感を高めることに大きく貢献したと言えるだろう。

一般に，定時制・通信制の高校は１日４時間程度の授業があり，４年間で卒業することを基本としてカリキュラムが組まれている。しかし秋田明徳館高校では，定時制のⅢ部に通う生徒は時間があればⅠ部やⅡ部の授業を受講することも可能であり，また，通信制の科目を受講してもよいため，単位の取得の仕方によっては３年で卒業することが可能である。例えば，Ⅲ部に通う生徒が仕事をしていたとしても，その仕事が14時には終わるとすればⅡ部の３校時や４校時の授業に出席することができるのである。もちろん，全員が３年で卒業するわけではなく，あくまでも自分のペースで卒業することが可能で，通信制は，最長12年まで在籍することができる。以前は，最長在籍期間は定まっていたかったため，単純な在籍数が1000人を超えることもあったとのことだが，現在のシステムが確立したことで，受講者の学習意欲の向上にもつながっていると言える。

定時制や通信制の高校に通う生徒の中には，普通高校に通う同年代の他校生と学校に通う期間のずれが生じてしまうことから，それをコンプレックスに感じ，自分が定時制・通信制に通っていることを周囲に打ち明けない者もいる。秋田東高校時代も例外でなく，ここに通う生徒も親も，通っていることを周囲に伝えないケースが多かった。だが，秋田明徳館高校になり，生徒の通学の様子から，この考え方が変わってきたことをうかがえるようになってきた。それは，秋田明徳館高校の校章が入っている体育着を着用して，登下校をする生徒が見られるようになったことである。体育着は，誰が見てもその高校の生徒であるとわかるものであるので，自分の通う高校に誇りを持っていることがわかる。「定時制・通信制は卒業に時間がかかる」というイメージを変えたことにも明徳館高校の大きな意味があると考えられる。

高校としての役割を発揮してきた秋田明徳館高校であるが，そこに通う生徒が抱える問題にも，常に真摯に向き合うこともしている。特に注目すべきなのは，高等学校における特別支援教育である。明徳館高校には，発達障害を抱えた生徒も在籍している。このような生徒に対してはどのような指導や支援をしているのか。

文部科学省の調査では，高等学校における特別支援教育の体制整備は小・中学校に比べ遅れていることが明らかになった。例えば，校内委員会の設置は，小学校98.9％，中学校93.8％であるのに対して，高等学校42.0％で，実態把握は，小学校92.5％，中学校83.1％に対して高等学校は，33.1％である。高校では，発達障害などに関する知識が乏しく，生徒の学習上の困難さは本人の努力不足によるものと考えられたり，障害が原因の不適応行動も生徒指導上の問題と捉えられたりすることもある（岩手県立総合教育センター 『中学校・高等学校における特別支援教育校内体制の確立に関する研究－既存の校内体制の活用・発展をとおして－』2006）。このように，高校ではどうしても手薄になってしまう傾向がある。秋田明徳館高校は，特別支援教育の教育専門監をはじめ，特別支援教育学校教員を異動対象として積極的に取り込んでいる。不登校は，発達障害の二次障害として現れてくる場合もあるため，そのような生徒になんの知識も持たず接することは良いこととは言えないだろう。したがって秋田明徳館高校の取り組みは非常に有意義なものである。

スペース・イオは，2005年の開設に向けて，その前年の2004年から秋田東高校の通信制課程において試行が始まったが，初めは児童・生徒に対してどのように支援をすればよいかという困惑もあった。スペース・イオのような場所の設置は，秋田県にとって初めての試みであった。

この秋田明徳館高校のような施設は全国的に見ても珍しい。義務教育学校の設置者である市などは，人件費の関係で多くの教師を雇うことが難しい。不登校の子どもが通う場所はどの市町村にもあり，そのような場所では

Akita University

教諭を一人雇うことができる程度である。退職した校長が面倒を見る場合もある。しかし，このような体制では，高校受験の指導などは難しく，生徒は塾に行くことしか方法がなくなってしまう。多くはこのような問題と向き合うことになるが，スペース・イオにはこの問題をうまく解決するシステムが整っている。スペース・イオは通信制課程に属しているため，児童・生徒は通信制課程の教師が比較的余裕のある昼間に，学習支援を受けることができるのである。ここで注目すべき点は，通信制の教師は，高校の教師ばかりではないことである。スペース・イオで小学生の指導ができるよう，経験のある小学校教師も勤務している。

また，スペース・イオでは，児童・生徒の学習状況に応じて，在籍している学校で出席などの認定ができるよう配慮されている。これについては，文部科学省が2003年5月16日「不登校への対応の在り方について（通知）」で「不登校児童生徒が適応指導教室や民間施設等の学校外の施設において指導を受けている場合，学校が把握した当該学習の計画や内容がその学校の教育課程に照らし適切と判断される場合には，当該学習の評価を適切に行い指導要録に記入したり，また，評価の結果を通知表その他の方法により，児童生徒や保護者，当該施設に積極的に伝えたりすることは，児童生徒の学習意欲に応え，自立を支援する上で意義が大きい」としている。

入所に当たっては，審査会を行っており，当初は入所することになる児童・生徒の在籍校の校長との面談の機会を設けていた。児童生徒の事情の説明やスペース・イオのシステムの説明など，お互いの理解促進と情報交換などを行うためである。中学生であれば，定期試験の問題をスペース・イオで代わりに実施し，その結果を在籍校へ送り，評価してもらうこともできる。

以上のように，秋田明徳館高校は独自の取り組みを行っており，それが児童生徒の生活や学習の最適な後押しとなっている。秋田明徳館高校を訪問した際，暗い雰囲気は一切なく，夏休み中部活動に励む生徒の活気で溢れていた。このような明るい雰囲気の中，生徒の辛かった経験が払拭され，生き生きとした日々を過ごせることを社会全体で支援する体制が全国に広がることが望ましいだろう。

３．現状について：安藤校長からの聞き取り

秋田の教育史を語るには欠く事のできない江戸後期の藩校，「明徳館」の名を戴く学校は，見学の日，開校以来，九度目の真夏の中にあった。広小路側には，白亜が際立つ新美術館，ハスが群生するお堀を挟んで二つの高等学校，県民会館，市立図書館明徳館など，大振りの文化施設の建物が居並ぶ間にあり，学校の出入り口側には，品のよいベーカリー，洒落た洋装店など，小ぶりの店舗の立ち並ぶ仲小路が見える。是も非もなく文化都市秋田を印象づける立地である。

私たち見学者が一様に驚いたのは，「教育・福祉複合施設」としても機能する学校建物内部の美しさであった。廊下やその両壁，音楽室，美術室，パソコン室，大体育館，生徒のための給食が用意される食堂などが，「清潔」なだけでなく，「美しい」のである。とりわけ，生徒用のロッカーにあっては，五年も経てば珍しくもない破損がただの一か所もみあたらない。生徒たちが施設そのものを丁寧に扱っている様子が覗える。

こうした「ハード」を持つ秋田明徳館高校に，開校以来初の女性校長として，注目と期待のなか赴任した安藤己智子先生を出迎えたのは，「３．11」以来断続的に続く不気味な余震であった。安藤先生は語る，「ある夜強い余震があって，直ちに学校に駆けつけたのだけど，仄かに光りを放つスモールランプを認めた時には，本当に安堵の胸をなでおろしました」。

生涯一国語教師として歩み続けようとの熱い思いで，34年間生徒と学校へ愛情を注ぎ，巡りあわせで校長の重責を担うこととなった安藤先生に，秋田明徳館高等学校の現状（特徴）と検討されている課題等について聞いた。

秋田明徳館高等学校の第一の特徴として，システムの柔軟さがあげられる。

秋田明徳館高等学校の定時制課程（男子261名，女子215名，計476名　2013年4月10日現在）は，単位制，担任制（教科担任，HR担任），三部制，無学年制，二学期制，そして，職員のAB勤務制を採用している。単位制の下で生徒たちは自分の好む科目を自由に選択する事ができ，自分の生活のリズムに合った通学時間帯を選ぶことができる。これについては，とりわけ，のちに述べる職員のAB勤務体制が大きな役割を果たしている。

教科活動とともに生徒会も動き，陸上・軟式野球・卓球など，運動部や文芸・演劇・写真など，文化部の活動も活発に展開し，定時制での活動のシンボルともいうべき「生活体験発表会」にも積極的に参加している。

通信制課程（男子268名，女子322名，計590名　2013年5月1日現在）は公立高校としては県内唯一のものであり，秋田駅に近いこともあって在籍生徒は，能代，男鹿，本荘，大曲など全県にわたっている。ここでも生徒会が組織され，陸上・柔剣道など体育関係や文芸コンクール，生活体験発表会などの文化活動も活発に行われ，開校以来これまでの卒業生総数は，2232名を数える。

特筆に値するのが，スペース・イオである。スペース・イオは，2005年4月，小学生，中学生，高校及び中学

Akita University

卒業後の不登校・ひきこもり傾向の子どもたちを対象として，彼らに学習支援を行うことを目的に開設された。その支援内容は，まさに，柔軟性を持って特徴づけられる。すなわち，スペース・イオでの時間割に沿って学習したり，自宅でインターネットを使って学習したり，通信添削を行ったりもする。もし，学習を進める過程で疑問や，悩むことがある場合には，スペース・イオスタッフや教育事務所の指導員，在籍教員などが本人と直接面談して，指導することなども可能となっている。学びそのものを心の居場所とするという目的が実現されうる支援体制となっている。2013 年 5 月現在で 35 名の中学生が学んでいる。

第二に，生徒の多様性があげられる。すでに述べたように秋田明徳館高等学校は定時制・通信制・スペース・イオの三つのセクションによって構成され，仕事を持ちながらも学習意欲を捨てきれないで，これを続けようとする方，不登校や引きこもりなど，学校不適応とされる子供たち，もう一度学びなおしたいと決意して入学する生徒，他校から編入する生徒，その他，家庭その他のさまざまな事情を抱えながらも「卒業資格」を目指して努力しようとする生徒たちが集う場所として日々機能している学びの場である。

以上の特徴の下での具体的な取り組みの指標となったのが，2011 年に策定された中期ビジョンである。これは（1）基礎学力の定着，（2）キャリアガイダンスの充実と進路実現，（3）社会性，規範意識の育成，（4）教育機能の充実と支援体制の整備，の 4 つの重点項目を掲げ，具体的な取り組みとして，たとえば，個別指導の強化や資格取得の奨励，コミュニケーション能力の育成，スクールカウンセラーの活用などが実践されている（ 2011 年 － 2015 年）。

公立学校としては唯一の通信制課程を持つなど，生徒一人ひとりの学びを保障しようとする，極めて「先進的」な取り組みを継続する明徳館高等学校であるが，その「先進性」の故に困難な課題が存在することも否定できない。安藤校長は，当面三つの課題がある，と率直に述べられた。すなわち，

（1）進む生徒の多様性とこれに対する対応の難しさ。
（2）学校の特徴を生かしきるための手立ての研究のむずかしさ
（3）生徒を支える職員の健康管理

以上の三項目である。お話しを聞いた直後，貪欲かつ大胆な問題提起と思った。いずれも解決のきわめて困難な問題と思われたからである。

（1）社会の複雑化とともに進む生徒の多様性
生徒への支援とは，「生徒の将来への支援である」と信ずる安藤校長にとって生徒一人ひとりへの細やかな対応といや増すばかりの生徒の多様化とは，互いにベクトルを異にする解決の困難な問題である。無理のない学力向上のための，スモールステップの多用，職場へのインターンシップの打診など，職員の工夫による成果も確認できるが，悩みは続く。

（2）モデルなき研究
（2）については，よるべきモデルのない第一線の研究者たちが直面せざるを得ない課題であると思われた。教師として生徒の学びを保障するという目標に誤りはない。これを具現化するためにとにもかくにも動き出したのである。この点は高く評価されねばならないであろう。多くのデータの整理・収集と斬新なアイデア求めての職員相互の活発な話し合いが続く。

（3）職員のヘルス・マネジメント
これらの諸問題に対応する職員の健康の確保も決しておろそかにできない課題である。AB 勤務体制の下で B 勤務の翌日の A 勤務に伴う負担など，具体的問題を解決するための議論（勤務の一元化は学校・生徒の共同体意識を失う恐れがあるなど）は続くが，限られた人的・物的資源のなかでの，「限界事例」ともいうべき困難問題と思われた。

「生」の意味を問い続けることから解放されることはなく，「生」の充実を求めることを諦めることのない人間の本性を思えば，いかなる分野であれ，「問題がない」などということはあろうはずはない。しかし，その絶えることのない問題に対して心ならずも立ち向かってしまうのもまた人間であるとも思う。教育に対する情熱を捨てきれず，自ら設定した高いハードルに果敢に挑む安藤校長と教職員たちの実践に拍手を送りたい。

４．秋田明徳館高校の現状と今後について

秋田明徳館高等学校は，前期中等教育段階までに様々な困難を感じてきた生徒達を，普く受け入れる学校としての使命を果たすべく制度設計されている。一般的な教育環境となじまない場合であっても，この学校において新たな価値観に目覚め，自己有用感を育むことにより，社会の一員として生きていく力を養成することを第一としたものである。設立当初は斬新な学校の感があったが，10 年目を間近にして，社会状況も様々に変化していることから，更に一歩踏み込んだ新たな取り組みが求められているように思われる。

本学の隣地に，秋田市の中心市街地再開発計画により，秋田県立美術館やにぎわい交流館がオープンし，本学が名実ともに秋田市の市街地の中心校になった感がある。設立段階でもスペース・イオなど，全国に先駆けた取り

Akita University

組みを進めてきているところであるが，秋田の教育に新たな流れを作るべく次のようなプランを提案してみたい。

(1) 地域との連携によるキャリア教育プラン

(2) 地域文化の担い手養成拠点校プラン

以上の二点である。

(1) のキャリア教育についてであるが，このことは，すべての学校教育段階においてその必要性がいわれていることである。望ましい勤労観・職業観を育むために，社会人の講義やボランティア活動など様々な試みが行われているが，今ひとつ成果がはっきりしないジレンマがある。本学は単位制である点を最大限生かし，「学校外の学修における単位認定制度」を活用したインターンシップを積極的に取り入れていくことが可能である。実際に一定期間インターンシップに従事することにより，様々な職種の特性を自分の肌で感じ，自己の職業適性を把握することができる。このことをベースにして，就職に必要な資格取得などについても，「学校外の学修における単位認定制度」を適用し，より積極的に取り組むようにさせたい。その際，秋田明徳館高校のように，普通科単独の高校の場合，生徒一人一人の要望をすべて自校でまかなうことは困難であるので，近隣の教育施設の教育力を活用していくことが望ましい。このことを実現するためには，教育委員会及び学校としては，インターンシップを受け入れてもらう事業所の開拓や，資格取得を目的とした近隣の教育施設との連携を実現することが必要となるであろう。

(2) については，県立美術館やにぎわい交流館の開設が後押しとなるように思う。2005年度開設時においても，生徒の作品展の開催や学園祭の充実，演劇部の創設など，特に文化に振った学校づくりをしてきたところであるが，ここにきて近隣外部の環境も整ったことでもあり，美術，音楽など県内の芸術科教員の総力を挙げて後継者養成の拠点としてとらえたらどうだろうか。授業，課外活動も含めて近隣環境を活用して地域文化の担い手を養成していく中で，将来の芸術家を育むことが可能であろう。また，陶芸や漆器工芸，食に関する技能など，職人的な技術へのアプローチも学校の特色に合っているように思える。生涯学習の観点からも地域の伝統文化の伝承に貢献する学校として特色づけすることは存在意義を高めることになると考える。

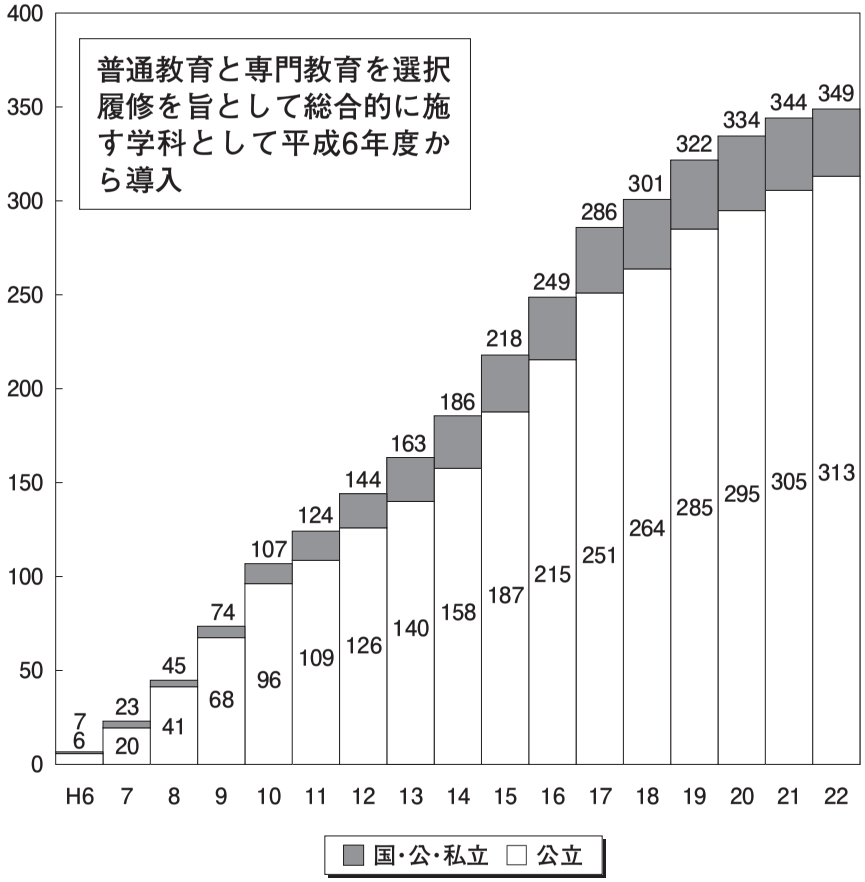
近年では高校進学率が98％前後で，ほぼ全員が高校に進学するようになっているが，義務教育学校との大きな違いは，受検生に選ばれるかどうかで存立が決まるということである。高校のマネジメントで重要な視点は，－選ばれる学校であるためにどうあれば良いのか－という点に集約される。そのため，社会的要請への対応，地域への貢献はもちろんのこと，更に一歩進めて地域社会への提案も含めてその学校の教育活動全体を構成していく視点が必要であることを提言しておきたい。

（1は佐藤，2は星，3は菊池，4は神居が主に執筆した。）

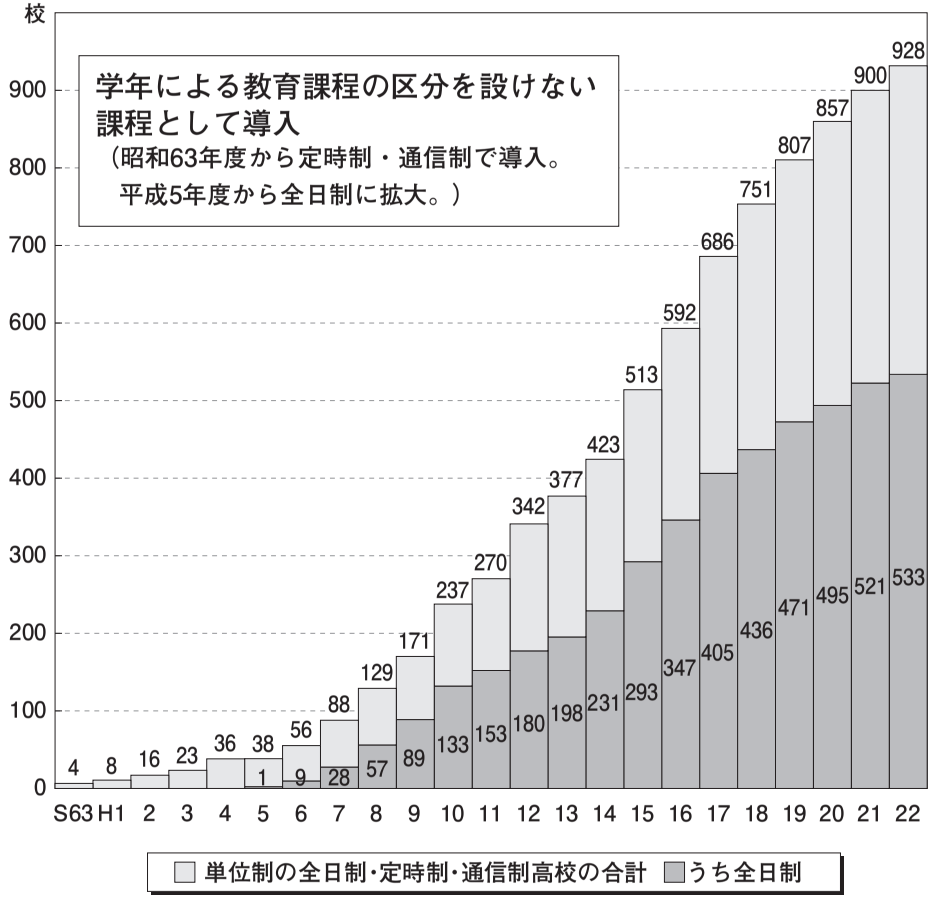
Akita University

総合学科・単位制高等学校数［推移］

総合学科の数



単位制高等学校の数



文部科学省調べ

Akita University

職員構成

課程＼職名	校長	副校長	教頭	教諭(兼)教育専門監	教諭	養護教諭	養護教諭(臨時)	実習教諭	学習指導員	主幹(兼)事務長	事務長補佐	主事	技能主任	技能技師	非常勤技師	主任学校栄養士	非常勤学校司書	臨時講師	非常勤講師	臨時職員	スクールカウンセラー	キャリアアドバイザー
定時制	1	1	2		39	2		1		1	1	1	2	1	1	1	1	6	2	3	2	1
通信制			1	1	19		1		9									3	6	0		

課程＼教科	国語	地歴・公民	数学	理科	保健・体育	芸術	外国語	家庭	商業	情報	科目講座	合計
定時制	8	5	6	8	6	3	7	3	4	2	0	52
通信制	4	4	5	4	3	2	4	2	1	1	5	35

（定通兼務２名）

出典：平成25年度学校要覧

◆定時制の教育課程（平成25年度実施）

単位数累計		1年次	2年次	3年次	4年次
通常授業月～金	1	国語総合	体育	体育（3年次以降で，3～4単位履修）	
	2				
	3		保健		
	4				
	5	現代社会	その他は進路志望にそった科目を選択します 国語表現Ⅰ　理科総合B　家庭基礎 現代文　物理Ⅰ　家庭総合 古典講読　環境基礎　フードデザイン 世界史B　スポーツⅡ　情報A 日本史B　音楽Ⅱ　ビジネス基礎 地理B　美術Ⅱ　マーケティング 政治経済　書道Ⅱ　マルチメディア演習 数学基礎　英語Ⅱ 数学Ⅱ　リーディング 数学A　英語基礎 など約60科目		
	6				
	7	数学Ⅰまたは数学入門＋数学活用			
	8				
	9				
	10	化学基礎			
	11				
	12	体育			
	13				
	14	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ			
	15				
	16	コミュニケーション英語Ⅰ			
	17				
	18				
	19	総合的な学習の時間（３～６）			
		H R	H R	H R	H R

◆日課表

校時	Ⅰ部	Ⅱ部	Ⅲ部
給食			16:55～17:35
SHR		13:00～13:05	17:35～17:40
1	8:40～ 9:25	13:10～13:55	17:45～18:30
2	9:30～10:15	14:00～14:45	18:35～19:20
3	10:20～11:05	14:50～15:35	19:25～20:10
4	11:10～11:55	15:40～16:25	20:15～21:00
SHR	12:00～12:05		

◆通信制の教育課程

		4年修業制				3年修業制		
教科	科目	1年次	2年次	3年次	4年次	1年次	2年次	3年次
国語	国語総合(1)	3				3		
	国語総合(2)		3				3	
	現代文			4				4
	国語表現Ⅰ				③			③
地理歴史	世界史B		4				4	
	地理B				4		4	
公民	現代社会	2				2		
	倫理			2				2
数学	数学Ⅰ	③				3		
	数学A		2				2	
	数学Ⅱ(1)		2				2	
	数学Ⅱ(2)			2				2
	数学B				③			③
	数学Ⅰ入門	③						
理科	科学と人間生活	2				2		
	化学基礎	2				2		
	物理基礎/生物基礎(選択)		2				2	
	化学Ⅰ/生物Ⅰ(選択)		3					
	地学基礎						2	
	地学Ⅰ				3			
保健体育	体育	1	2	2	2	1	2+2	2
	保健	2				2		
芸術	音楽Ⅰ		2				2	
	音楽Ⅱ				②			2
	書道Ⅰ			2				2
	書道Ⅱ				②			
外国語	コミュニケーション英語基礎	2				2		
	オーラル/コミュニケーションⅠ	2						
	英語Ⅰ		3				3	
	英語Ⅱ(1)			3				2
	英語Ⅱ(2)				③			③
家庭	家庭総合(1)			2				2
	家庭総合(2)				2		2	
情報	社会と情報	2						
	情報A			2(+1)				2(+1)
商業	簿記				4			4
総合的な学習の時間		1	1	1		1	1	1
単位数計		20	21	20(21)	20	20	31	29(30)
特別活動(ホームルームなど)		各年次10時間以上必要				各年次10時間以上必要		

出典：平成25年度学校案内

Akita University

スペース・イオ

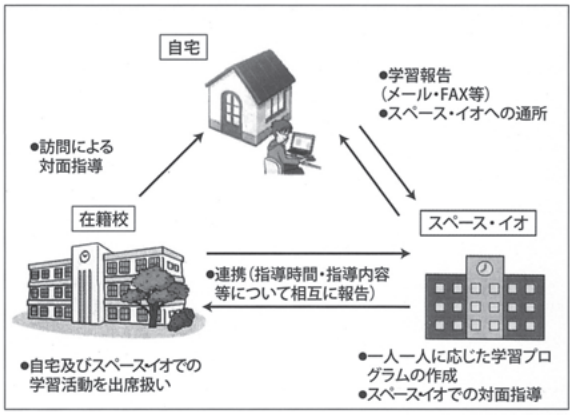
イオ（ＩＯ）は「Ｉｎ・Ｏｕｔ」（出入り）が自由にできる空間を意味します。また「ＩＯ」にはイタリア語で「私」の意味があります。

■心の居場所と学びのサポート

スペース・イオは、不登校の小学生、中学生、及び中学校卒業後の子どもたちを対象として、次の目的で設置されました。

(1) 児童生徒等が存在感をもち，安心して過ごすことのできる「心の居場所」を提供します。
(2) 個別の学習指導などを通して「学習支援」を行うとともに，体験的学習や活動を実施し，自立心や社会性を育てます。
(3) ＩＴ等を活用した自宅での学習機会の拡大を図り，学ぶ意欲を引き出します。小・中学生については，自宅でのＩＴ等を使った学習を出席扱いとします。
(4) 教員や臨床心理士等による教育相談やカウンセリングを通して，児童生徒や保護者の悩みや不安の解消を図ります。

■不登校児童生徒への学習支援



スペース・イオ

～ 学びを心の居場所に ～

● ＳＢ５（スタディベーシック５）
５教科の基本的内容を授業形式で行います。基礎学力の充実と一斉授業になれることを目的とします。

● 中３トライアル
英、数、国の ３教科について授業形式で行い、高校受験に備えた学習を行います。

●クリスマス音楽会

●校外学習

● カルチャー＆アドベンチャー

集団活動を通して体験を広げ、コミュニケーション能力や課題解決能力を育みます。

●スタディワーク
中学校の理科や社会の基礎的な実験、観察、体験などを通して知的好奇心を深めます。

● ＩＴ等を活用した学習
スペース・イオに来られない子どもに、インターネットやファックス等を使った学習支援で、学習意欲を高め、対面指導につながるよう援助します。

カリキュラムフレームの中から、自分の取り組みたいメニューや曜日、時間帯を決め、学習計画を作成し、自分のペースで学習に取り組みます

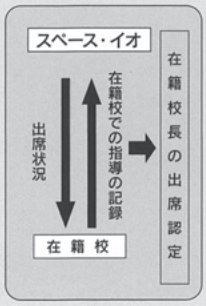
■学習の三つのタイプ

学習形態

〈タイプ１〉
「スペース・イオに通って学習を行う」

〈タイプ２〉
「スペース・イオと自宅での学習（IT 等）を組み合わせる」

〈タイプ３〉
「主に、自宅で学習（IT 等）を進める」



平成25年度 募集期間　前期　４月５日～４月12日
　　後期　８月21日～８月30日

※期間に限らずご相談下さい。

■イオ時間割（カリキュラムフレーム）

学習支援

	月	火	水	木	金
9:50～10:30	読　書 スキルアップ 自学自習	読　書 スキルアップ 自学自習	読　書 スキルアップ 自学自習	読　書 スキルアップ 自学自習	読　書 スキルアップ 自学自習
10:45～11:30	個別学習 SB5国語	個別学習 SB5英語	個別学習 SB5社会	個別学習 SB5数学	個別学習 SB5理科
11:45～12:30	SB5理科 個別学習 連絡タイム	SB5数学 個別学習	SB5国語 個別学習	SB5英語 個別学習 相談タイム	SB5社会 個別学習
13:15～14:00	個別学習 相談タイム	スタディワーク （理科・社会）	個別学習 音楽リラク ゼーション	ソーシャル スキルトレ ーニング エンカウンター	カルチャー ＆ アドベンチャー
14:10～15:00	中3 トライアル	集団適応支援		中3 トライアル	

※ＩＴ等学習については、随時対応しています

秋田県立秋田明徳館高等学校内　スペース・イオ　☎018-834-0537
ホームページ：meitokukan@meitoku-h.akita-c.ed.jp

出典：平成 25 年度学校案内

Akita University

学校番号27

秋田県立秋田明徳館高等学校　中期ビジョン

Ⅰ　学校の現状や課題

【学校の現状】

本校は、秋田東高校、秋田工業高校定時制、秋田中央高校定時制の３校が統合し、平成１７年に新たに設立された定時制・通信制高校である。生徒一人ひとりの学びに沿った学習スタイルの提供を通し、心豊かな人材を育成することを目標として教育活動を行っている。平成２７年には、創立１０周年を迎える。

定時制課程は、単位制、３部制、２学期制、無学年制を特徴としている。

通信制課程は、公立高校としては県内唯一であり、不登校・引きこもり傾向にある小中学生の居場所として、フリースクール的空間「スペース・イオ」を設置している。加えて、科目履修講座は一般社会人も受講しているものであり、多様な学びのシステムを構築し提供している。

【課題】

生徒たちは、自分に合った学び方を求めて本校を選択し、学びへの意欲を持ち通学しているが、次のような点が課題として挙げられる。

１　基礎学力の定着
２　社会体験の機会提供
３　自己肯定感の醸成
４　多様な学びのシステムの検討・開発

Ⅱ　学校を取り巻く将来の状況の予測

少子高齢化が更に進む中、本校には、多様な学びを提供しながら秋田を支える人材を育成することが、一層求められている。

本校は、秋田駅近くの商店街に位置するビル内にあり、生徒1,０００名近く、職員１００名余が通学通勤している。現在、進められている市街地再開発により、今後学校周辺の賑わいの創出が予想される。

こうしたことも視野に入れて、本校の果たす役割は次のように考えられる。

第一は、生徒一人ひとりの将来を見据えた目標を実現させること。
第二は、地域にとって好ましい生徒集団・学校であること。

Ⅲ　目指す方向性・学校像や生徒の姿

【目指す方向性・学校像】

生徒の自主性を尊重しつつ、多様な学びを提供しながら、秋田を支える自覚ある人材の育成を図る学校。

【目指す生徒の姿】

◇責任感をもって行動できる生徒（自主自律）
◇思いやりの心をもって行動できる生徒（心豊かに）
◇地域や社会の一員の自覚をもって行動できる生徒（朗らかに）

Ⅳ　５年間を通しての具体的目標

これらの課題を解決し本校の使命を全うすべく、中期的視野で以下のような目標を掲げ、具体的な取り組みを行っていく。

１　基礎学力の定着
２　キャリアガイダンスの充実と進路実現
３　社会性・規範意識の育成
４　教育機能の充実・支援体制の整備

Akita University

秋田県立秋田明徳館高等学校　定時制課程　中期ビジョン

重点目標		具体的取り組み（H２３～H２７）
基礎学力の定着	○基礎学力の定着 ○自学自習 ○授業力の向上 ○出席率の向上 ※出席率９０％以上	○個別指導の強化　少人数学習・習熟度別学習(英語・数学) 学び直し講座の開設 ○自学課題の提供　図書館の利用促進　履修科目登録指導 三修制希望生徒への支援 ○分かる授業の推進　授業研究会　生徒による授業評価
キャリアガイダンスの充実と進路実現	○就職・進学率の向上 ○進路意識の高揚 ○進路情報の提供 ○卒業時の進路実現率８０％以上	○模試・補習・個別指導　資格取得の奨励　新規企業開拓 ○進路ガイダンス　就労体験の推進（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ・ｱﾙﾊﾞｲﾄ） 就労指導　OB・企業による進路講話 ○「進路の手引き」作成　ハローワークとの連携 キャリアアドバイザーの活用　就職支援講座
社会性・規範意識の育成	○学びにふさわしい整容 ○挨拶の励行 ○部活動の奨励 ○清掃意識の育成 ○地域イベントへの参加	○TPOに応じた態度や言動　さわやかな整容意識の確立 ○挨拶指導の通年実施　保護者参加の挨拶指導 定期的な巡視（校内：毎日、校外：週３回） ○部活動加入率の向上　思いやりの心の育成 コミュニケーション能力の育成 ○教室掃除の習慣化 ○地域ボランティアの推奨　通学路清掃
教育機能の充実支援体制の整備	○健康・安全教育 ○教育相談体制 ○授業の公開 ○HPの定期的更新 ○中学校訪問	○健康・安全講話　地域教育力の活用 ○スクールカウンセラーの活用　外部機関との連携 職員研修（カウンセリングマインド） ○授業公開日の設定 ○学校情報の発信 ○学校説明会への参加　体験入学

秋田県立秋田明徳館高等学校　通信制課程　中期ビジョン

重点目標	H22状況		具体的取り組み（H23～H27）	到達目標
単位修得率の向上	修得率	83%	◆スクーリング研修、リポート添削研修の実施 ◆校内相互参観（前期1）　◆校内研修会（前期1） ◆第三者参観と研修会（後期1） ◆第三者による添削講習（後期1） ◆学び直し講座の改変	90%
就職・進学率の向上	就職率	16%	◆就職セミナー（前期1）　◆企業訪問・開拓（通年） ◆進路講話（後期1）　◆模擬試験の実施（通年） ◆進学者用学習会（通年）　◆個別指導の充実（通年）	28%
	進学率	32%		50%
公共マナー・自己管理の意識向上	各種調査講座等の実施	検討	◆挨拶、容儀指導（通年） ◆生徒・保護者面談（前期1） ◆巡視（校内毎授業時・繁華街適宜） ◆性教育講座（前期1）　◆薬物乱用防止教室（後期1） ◆休学生徒の実態調査（年1）◆生徒就業調査（年1） ◆カウンセリングの励行（スクーリング日） ◆健康診断事業追加実施（眼･歯･耳鼻科検診H23～）	問題行動ゼロへ
科目履修講座受講率向上	受講率	60%	◆広報活動の充実（HP・マスコミ活用） ◆講座種類・内容の改善（生涯学習課との連携）	80%
学習システムの再検討	コース制の設置	検討	◆週2～3回登校コースの検討開始（進学希望者用） ⇒　調査研究　⇒　入試用説明開始（H26）	実施
	IT学習の実施	検討	◆実施形態の検討（休学者用） ⇒　調査研究　⇒　休学者に説明開始（H26）	実施
スペース・イオ 不登校状況の改善学校復帰率の向上	通所IT学習数	73日	◆ステップアッププログラムの充実	80日
	不登校入所率	9.8%	◆県南・県北への広報活動	12%